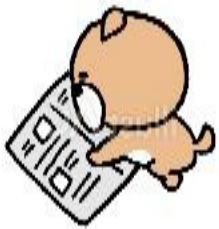


はまなす



令和4年6月6日
四倉高校図書館だより第2号

中間審査が終わりました。結果に満足または安堵した人、ちょっと悔しい思いをしている人、眉間に深いしわを寄せてしまった人もいるかもしれません。結果に疑問を感じた人は審査に向けた取り組み方はどうだったか？振り返ることで次にすべきことが見えてくると思います。今月後半の1学期期末審査は挽回のチャンスですよ。



図書館に来る皆さんの様子を見ていると、ほとんどの人が書棚に向かい自分の求める本のところに行きます。図書館ですから当たり前の光景なのですが、図書館には新聞や雑誌もあります。入館後、まっすぐ雑誌に向かう人もいますが隣には【**新聞**】があります。ニュースならネットやTVで十分、新聞は読むのに時間がかかるから、と新聞を敬遠する人は意外と多いですね。「もったいないなあ」。ネットのニュースは速報性がありますが情報の信頼性は新聞にはかないません。世の中の流れを大まかに把握するには新聞の一覧性が適しています。紙面のレイアウトや見出し・新聞の仕組みなどの【**コツ**】がわかると上手に読むことができます。図書館では、これから「**新聞を上手に読むコツ**」と、**保管している新聞を希望者に1部ずつ配布します**。これを機に、是非新聞に興味を持ってください。特に3年生、進学・就職の面接のときに自信を持って臨むことができますよ。時間のない人は「社説」や「コラム」から始めましょう。今からでも大丈夫。新聞を読もう！！

*新聞を読むことで「書く力」「読む力」「会話する力」が備わると言われています。

『アドルフに告ぐ』全4巻

手塚治虫/著



アドルフ・ヒトラーにはユダヤ人の血が流れているという設定で、この漫画は展開します。第2次世界大戦中のドイツでアドルフ・ヒトラーの出生の秘密を知った日本人留学生が殺害されることから始まり、この秘密は日本に住むアドルフという同じ名前を持つ2人の幼馴染みの運命にも影響を与えます。ナチスによるユダヤ人迫害の実態、日本では戦時中の思想や言論の弾圧など、戦争は人の体ばかりか心までも破壊します。著者はこの題名にどんな想いを込めていたのか、読了後に考えてみませんか。余談ですが、現在もたくさんの地域で紛争は続いています。新聞は世の中を知るための大切な手段です。新しい視点から物事を見る目を育てることになり、知識や思考の幅、そして本質を見極める力をつけていくためにも、継続して新聞を読む努力をしてください。

図書館では前期と後期の2回に分けて新しい本を購入しています。皆さんのクラスにリクエスト用紙を配布しますので、気になる本や図書館に入れて欲しい本を記入してください。



締め切りは6月15日(水)です。

図書委員は放課後の委員会活動時にクラス用の用紙を回収し持参してください。図書館でも随時リクエストを受け付けしています。◇雑誌のリクエストは不可。